

令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
34-1	山車ガイドブック作成事業	B	精緻な彫刻、絢爛豪華な刺繍帯等も紹介することで、山車そのものだけでなく歴史や文化を広くPRできるガイドブックが作成できた。	拡充推進	次回は第10回はんだ山車まつりに合わせたガイドブックの作成となるため、サイズの拡大、ページ数を増やすなどし、第10回を記念するガイドブックを作成する必要がある。
34-2	旧中笠家住宅保存活用事業	B	令和4年度は、旧中笠家住宅のさらなる活用の一つとして外観を活かした活用を行うため、新美南吉の童話作品イラストによる飾り付けや子ども用ワークシートのデータ制作を行った。地域住民や子どもたちの当住宅に関する認知度向上が図られたとともに、子どもたちを始めとした文化財建造物初学者の方に、当住宅の見どころや見学のヒントをわかりやすく伝えることができるようになった。 本事業の課題として、当住宅は、様々な制約により、多人数の受け入れや長期間の公開が困難であり、公開時期が限られるが、地域住民や子どもたちに対して、認知度や関心を高める必要がある。	拡充推進	重要文化財旧中笠家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中笠家住宅における保存活用の基本方針（令和2年3月策定）」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備、さらなる活用のために必要な整備を行っていく。
34-3	全国山・鉾・屋台保存連合会総会亀崎大会開催補助事業	B	国の重要有形民俗文化財及び無形民俗文化財指定を受けた祭礼団体等で構成する全国山・鉾・屋台保存連合会及び祭屋台等制作修理技術者会との共催で、山・鉾・屋台など山車・屋台類の保護思想の普及啓発並びに祭屋台等の制作修理技術の練磨と後継者の育成を図るとともに各委員の情報共有・意見交換などの交流を行い、地域文化の向上を目指すことを目的に、亀崎潮干祭保存会を中心に実行委員会が組織され、補助金を交付することで「全国山・鉾・屋台保存連合会総会亀崎大会」を盛大に開催することができた。	終了	
34-4	企画展開催事業	B	企画展「知多半島の化石」は、県内外の博物館や関係機関から貴重な資料を借用し、展示することができた。また、記念講演会や体験講座など、多くの関連イベントを実施した。期間中は、連日たくさんの親子連れで賑わい、近年では最も来館者数の多い企画展となった（昨対比+6,661人）。さらに、企画展を観覧した学校関係者から出前講座の依頼があるなど、企画展の開催が教育普及活動にもつながった。一方で、いずれの展示でも解説パネルやキャプションが難しい・分かりづらいという意見もあり、より分かりやすいものに改善していく必要がある。	拡充推進	引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。 また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
B	山車ガイドブック作成事業は、彫刻、刺繍帯等も紹介することで、山車そのものだけでなく歴史や文化を広くPRできるガイドブックが作成できた。令和4年度もコロナ禍による影響はあったが、全国山・鉾・屋台保存連合会亀崎大会では、亀崎潮干祭保存会に補助金を交付し、全国の祭り人に半田の山車文化と令和5年10月に開催される第9回はんだ山車まつりを広くPRすることができた。また、企画展「知多半島の化石」では、多くの関連イベントを実施し、多くの方に博物館に来ていただくことができた。				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	全国山・鉾・屋台保存連合会亀崎大会を、亀崎潮干祭保存会と連携を取り成功裏に終えることができたのは評価できる。市民の財産である文化財を保存・継承していくことはもちろん、郷土資料の収集、調査、保存に加え、積極的な情報発信をすることで、市民の文化的教養や保護意識が高まるよう取り組んでいきたい。				